

イラン

復活祭前日 (2019年)
ソヤ・ビールザード 著
藤元 優子 訳
多民族多宗教の国イランで、それぞれの文化に敬意を払い、共に生きる多様な人々のしきたりと、それを乗り越えようとする自由な心を描く。

インド

崩れる壁 (1991年)
ウベンドラナート・アシュク 著
高橋 明 監修 三木 雄一郎 訳
ヒンディー・リアリズム小説の傑作
文学に志を抱く青年チェータンの恋と苦悩…
そこに投影されるのは、若き日の著者の姿
タマス (1991年)
ピーシュム・サーヘニー 著
田中 敏雄 訳
タマスー 暗黒と名づけられた歴史の瞬間
1947年のインド・パキスタン分離独立前の5日間を、冷静な目で克明に描いた、インド国立文学アカデミー賞受賞作品
ジョルジャゴル (1993年)
タラシヨコル・ボンドパッダ工 著
丹羽 京子 編訳
明かりを消せ、音楽堂を閉めるんだ！
七代続いた領主、ラエ工家の終焉を描いたタラシヨコルの代表作
現代ヒンディー短編選集1 (1999年)
長 弘毅 監訳
大海の一滴の存在の重さ
民衆にとって独立とは？その真の意味を問うヒンディー文学の世界
私の兄バルラージ (2002年)
ピーシュム・サーヘニー 著
田中 敏雄 / 鈴木 美和 訳
人が死後唯一遺すことができるもの、それはその人柄の香りである。尽きることのない兄への想いを綴ったヒンディー文学の秀作
ピールールの少年時代 (2006年)
クリシュナ・バルデーオ・ウァイド 著
長崎 広子 訳
異色のヒンディー作家 第一作
傷つきやすい少年の目を通して、インドの家族の生活が繊細なタッチで見事に表現された代表作
ウダイ・プラカーシ選集 (2011年)
ウダイ・プラカーシ 著
石田 英明 編訳
時代を捉え、社会の矛盾に警鐘を鳴らす
現代ヒンディー文学を代表する作家の傑作3作品を収録
ベンガル詩選集「もうひとつの夢」(2013年)
丹羽 京子 編訳
新たなる詩の輝き 夢を紡ぐ7人の詩人の世界
現代ベンガル詩を代表する詩人7人の作品を収録
黄色い日傘の娘 (2017年)
ウダイ・プラカーシ 著
石田 英明 訳
理不尽な現実が、ふたりの愛を強くする一。
現代ヒンディー文学の第一人者が投げかける問題作。

インドネシア

ニ・ポロック (1990年)
ヤティ・マルヤティ・ウィハルジャ 著
佐々木 重次 監修 山根 しのぶ 訳
ベルギーの画家と結婚し、東西芸術の融合を果たす。
そしてイタリア人医師との結婚、別離… 舞姫ニ・ポロックが語る愛の半生
レンドラ (1990年)
レンドラ 著
印堂 哲郎 編訳
風の中に住む詩人レンドラ
「インドネシアの良心」ー 愛と抵抗の詩人レンドラの詩と詩劇 13編を収録
チバラックの丘の麓で (1992年)
アフマッド・トハリ 著
山根 しのぶ 訳
中部ジャワのどかな農村、チバラックの丘の麓のタンギル村にも近代化の波が押し寄せる。新しい生活様式へ変化を遂げていく村を背景に、ひとりの青年を中心にさまざまな人間模様を描く
スキのいない旅 (1993年)
アイブ・ロシディ 著
粕谷 俊樹 訳
村での結婚、出産、子育て、人々との交わり、祖母の病氣などさまざまな出来事が頭をよぎる。著者の自伝的青春小説
愛のかたみ (2002年)
ヤティ・マルヤティ・ウィハルジャ 著
山根 しのぶ 訳
“死が訪れるその時まで書き続けたい”
42歳で逝ってしまった女流作家が遺した愛をめぐる 12編を収録

カンボジア

現代カンボジア短編集 (2001年)
岡田 知子 編訳
民族の歴史の記憶
フランスから独立以降現在に至るまで、悲運の歴史の中に遺された貴重な 13編を収録
地獄の一三六六日 (2007年)
オム・ソンバット 著
岡田 知子 訳
生き延びた！
ポル・ポト政権下での過酷な体験を克明に綴った一庶民の記録。「第43回日本翻訳出版文化賞」受賞作品
萎れた花・心の花輪 (2015年)
ヌー・ハーイ 著
岡田 知子 訳
時代の厳しい雨風のなか、咲き誇る純粋な愛の花
カンボジアの著名作家ヌー・ハーイ氏による同国の国民的な文学作品を収録

スリランカ

変わりゆく村 (2010年)
マーティン・ウィクラマシンハ 著
野口 忠司 / 織田 健一 訳
スリランカを代表する作家 マーティン・ウィクラマシンハの畢生の大作
変貌する社会を背景に旧家三代の栄枯盛衰を描いた三部作 第一弾
変革の時代 (2011年)
マーティン・ウィクラマシンハ 著
野口 忠司 訳
旧家三代の物語 第二部 ー 地位と名誉を追い求める父、奢侈と社交に明け暮れる母、両親の虚像に愛想をつかさ子供たち。崩壊する家族の過去と現在を浮き彫りにした秀作
時の終焉 (2012年)
マーティン・ウィクラマシンハ 著
野口 忠司 訳
旧家三代の物語 完結！ ー 事業家の父に反発し労働運動に加わっていく息子。慣習にとらわれず新しい道を選ぶ娘。“マハ・ゲダラ(大家)”の未来は？

タイ

業の農 (1986年)
ドゥアンチャイ 著 吉岡 みね子 訳
1973年の民主革命が起きた時代を背景に、国家発展の変遷期にあったタイが包含する諸問題を浮き彫りにした作品
アジアにかがる虹 (1987年)
スミット・ヘーマサト / アキン・ラビパット 著
野中 耕一 編訳
著名な教育家であり、タイのスラムの子供たち、住民のために献身的な努力を続けるフラティープ女史の生い立ちと数々の活躍を綴った評伝
チャオプレーア河の流れ (1987年)
サティエン・チャンティマートーン 著
吉岡 みね子 編訳
タイ文学の脈動
歴史・社会思想の観点からタイ文学を洞察し、その思潮を鋭く分析するとともに、文学を通して社会を見つめる。「タイ文学」を読み解くための視座を与えてくれる一冊
メナムの残照 上・下 (1987年)
トムヤンティ 著 西野 順治郎 訳
タイ国王最高文学賞受賞作品 初の完訳
日本軍人とタイ女性に恋が芽生え、その一途な思いも、時代の潮流に翻弄されて…
マブラーオの楽章 (1989年)
ワット・ワンラヤーンクーン 著
吉岡 みね子 訳
音楽を愛する一人の青年の眼とおして、タイ現代社会を様々な角度から捉え、人間の真の生き方を問うた作品
ナーンラム (1990年)
タイ国言語・図書協会 編
吉岡 みね子 編訳
タイ文学の万華鏡一土に、海に、都会に生きる人々の生と死ー 15人の作者の目を通して映し出した詩・短編・戯曲 29編のアンソロジーを収録
地、水そして花 (1991年)
サクチャイ・バムルンボン 著
吉岡 みね子 訳
第二次世界大戦下、自由タイ運動に投じた青春。愛とは？人生とは？そして戦争とは？現代史の証言を小説に織り込んだ傑作
タイ現代詩選 (1994年)
スチット・ウォンテート他 21名 著
岩城 雄次郎 編訳
タイの現代社会が持つさまざまな問題やそこに生きる人々の姿を見事に描き出した現代詩人 22人の作品を収録
イサーンの医者 (1995年)
スミット・ヘーマサト 著
野中 耕一 監修 坂田 久美子 編訳
そうだ、こんなに何も無いところからでも始めてみようじゃないか…。タイのプライマリ・ヘルスケアに偉大な業績を記した一医師のドキュメント
ゲーム・アムナート (1997年)
チャールムサク・ンゲムンガム 著
桜田 育夫 訳
ウィジャーンはなぜ撃たれたか？
タイのある地方政治家の野望と挫折
果てしなく繰り返される権力をめぐる闘い
タイの大地の上で (1999年)
吉岡 みね子 編訳
人々に顧みられることなく埋もれかかった第二次世界大戦前後の名作、短編 9編と詩 2編を収録
時 (2003年)
チャート・コーブチッティ 著
岩城 雄次郎 訳
「何もない。まったく何もあリゃしない！」 部屋奥の奥から叫び声が聞こえてくる。それぞれの人生と孤独を抱えた老人たち的一天を、新たな手法で描いた東南アジア文学賞受賞作
敗者の勝利 (2004年)
セーニー・サオワボン 著
吉岡 みね子 訳
第二次世界大戦中の満州国をめぐる当時の国際政治の動きを巧みに組み入れ、文学作品としても深い味わいに満ちた長編
罪との闘い (2008年)
シーブーラーパー 著
宇戸 清治 訳
今なおタイ人の心に生き続ける“タイ文学の巨匠”シーブーラーパー
人生の真実を追い求めた表題作ほか 2編を収録
幻想の国 (2009年)
M.R. ニミットモンコン・ナワラット 著
吉岡 みね子 訳
1930年代ー
未来を担う若者にタイの真の発展と繁栄を託した一人の政治犯の物語
現代タイのポストモダン短編集 (2012年)
宇戸 清治 編訳
若手作家 6人によるタイからの新しい風
タイ文学から世界文学へ
時の一雫 (2016年)
セーニー・サオワボン 著
吉岡 みね子 編訳
祖国と自然を愛したタイ文学界の重鎮による随筆・評論・短編を収録。人間を温かく見つめ続けたサオワボンの人生哲学や歴史観が凝縮された作品集。
一粒のガラス (2017年)
シーダーオルアン 著
宇戸 優美子 編訳
理不尽で無慈悲な世界。置き去りにされた弱者の痛みと孤独。現代タイ文学随一の女性作家が描く、労働者の物語。

トルコ

オメル・セイフェッティン短編集 (2020年)
オメル・セイフェッティン 著
鈴木 郁子 訳
無関心な夫との関係に悩む東方、戦地で出会った異国の女に恋焦がれる兵士、若者に変身し、大活劇を演じる少女ー 20世紀初頭のトルコに生きる「庶民のリアル」を描いた短編 13点

「アジアの現代文芸」シリーズ 全76作品紹介

・ ・ ・
は電子書籍化されている作品 (2022年七月末現在)
() 年 は翻訳出版年

パキスタン

パルメーシャル・スィング (1987年)
アフマド・ナディーム・カースミー 著
鈴木 斌 編訳
農村生活の過酷な日常のなかで貧しいながらも誠実に生きている民衆への深い同情と共感が投影された。表題作を始めとする 12編の短編を収録
静寂 (1988年)
アフマド・ナディーム・カースミー 著
鈴木 斌 編訳
動乱で故郷を追われ、どん底の生活をしいられても、生きていかなければならない哀しさ、貧しい者が持つ逞しさを描いた好著 5篇を収録。主人公の名前は違っても、共通するのはパシジャービー民族の慟哭の姿…
黒いジャルワール (1988年)
サアダード・ハサン・マントー 著
鈴木 斌 / 片岡 弘次 編訳
悲しくもユーモラスな人間ドラマの意外な最後ー 結末の見事さで“読者に平手打ちをくわせる”と評されたマントー初の短編集
グルムク・スィングの遺言 (1990年)
サアダード・ハサン・マントー 著
鈴木 斌 / 片岡 弘次 編訳
世間から少しずれてしまった人々を、シニカルに、そしてユーモラスに描いたマントー独自の世界。鮮烈な印象を残す 9編を収録
アーナンディー (1991年)
グラーム・アッパース 著
山根 聡 編訳
簡明な文体、繊細な描写で“日常生活の仮面”を見事に剥いでみせるアッパース。表題作ほか 10編を収録した傑作短編集
ダーダーと呼ばれた女 (1992年)
ハーディージャ・マストゥール 著
鈴木 斌 編訳
あたしや女じゃない 悪女なんだよ。幸せな結婚を夢見ていたカニースは冷たい家庭に絶望した。女であることを拒否し、ダーダー(悪党)となった彼女を待ち受けていたものは…
神の街 (2006年)
ショウカット スィッディーキー 著
萩田 博 訳
パキスタンが長年にわたって抱えている失業や貧困が原因となって引き起こされる犯罪や政治の腐敗などを描き出し同国最大の文学賞“アーダム・ジュー文学賞”を受賞した作品
インティザール・フサイン短編集 (2009年)
インティザール・フサイン 著
萩田 博 訳
現代ウルドゥー文学の開拓者
インティザール・フサイン 著
萩田 博 訳
パキスタンを代表する作家の秀作 8編を収録
ジブリールの翼 (2011年)
ムハンマド・イクバル 著
片岡 弘次 訳
パキスタンの「国民的詩人」であると同時に、宗教家、哲学者、政治家でもあった、イクバルの今なお愛唱される最高傑作
ムーサーの一撃 (2014年)
ムハンマド・イクバル 著
片岡 弘次 訳
国民的詩人の現代への戦闘宣言
衰退するイスラーム教徒に向けて、主体性の強調と行動主義を基調とする自我の哲学思想を詩に託した戦闘宣言の書
ヒジャーズの贈物 (2018年)
ムハンマド・イクバル 著
片岡 弘次 訳
ペルシャ語とウルドゥ語からなる彼の 40年間の思想・哲学を集大成した作品。イスラーム社会の行く末を憂い、イスラーム教徒の再生と覚醒を熱い詩に託す。

バングラデシュ

赤いシャーラー (2004年)
ショイヨド・フリウウラ 著
丹羽 京子 訳
バングラデシュ文学の白眉
「根無し草」モジッドが築き上げる偽りの世界、極貧の中で懸命に生きる村人たち、それらのすべてを翻弄する圧倒的な自然を描いた秀作
バングラデシュ詩選集 (2007年)
丹羽 京子 編訳
「詩の国」から
タゴール以後も引き継がれてきたベンガル詩の伝統。生、死、人生そして愛ー 時代を映し出す 4人の詩的世界
地獄で温かい (2019年)
アクタルルジャマン・イリアス / ハッサン・アズル・ホク / セリナ・フセイン 著
丹羽 京子 訳
二度の独立、襲い掛かる天災、度重なる軍事政権。混乱する国土で生き抜く人々の日常と非日常。その行きつく先は？

フィリピン

鯨の涙 (1997年)
アマド・V・ヘルナンデス 著
大上 正直 監修 蜂谷 純子 訳
フィリピン民衆の真実
どこにでもあるような町サンピロンを舞台に、権力者の腐敗と民情を描いたロングセラー

ベトナム

ベトナム現代短編集1 (1995年)
加藤 栄 編訳
新時代の息吹！
ベトナム人の等身大の姿や日常を、生き生きとそして大胆に描いた、8人の作家の作品を収録
農園の日差し (2000年)
タック・ラム 著
川口 健一 編訳
“日常生活の詩情を開拓した最初の人” タック・ラムが、ベトナム社会とそこに生きる人々を豊かな感性で描く珠玉の名編集
ベトナム現代短編集2 (2005年)
加藤 栄 編訳
ベトナム文学の現在
新世代の作家とベトナム作家 11人が織りなす同時代のベトナムを伝えるメッセージ
囚われた天使たちの丘 (2016年)
グエン・ゴック・トゥアン 著
加藤 栄 訳
秋のない庭で、娘たちは守られていたはずだった。
外の世界を知るまでは…。伝統的な家族の絆、親子の愛情といった観念に鋭くメスを入れた実験的作品。
幼い頃に戻る切符をください (2020年)
グエン・ニャット・アイン 著
伊藤 宏美 訳 加藤 栄 監訳
8歳の少年ムイと3人の幼なじみが繰り広げる、(革新的)な遊びの数々。大人になった今、もう一度(幼い頃)という名の列車に乗るうーあの頃の自由な発想を取り戻すためベストセラー作家による表題作他 1編

マレーシア

バングルの虎 (1989年)
シャーノン・アハマッド 著
星野 龍夫 訳
風がそよぎ、鳥が囀るマレーシアの小村。近代化の波がこの村にも押し寄せた。混乱に陥った村人の前に、一匹の虎が現れるー
ある女の肖像 (1998年)
S・オスマン・クランタン 著
小野沢 純 監修 加古 志保 訳
時代も国境もこえるものは？
父と夫、そして子供たちの死… 残された大家族を抱え、日本軍占領下のマレー社会で、シティ・ムサルマーは才知と愛をもって生き抜いた
レダ山のお姫様 (2003年)
藤村 祐子 / タイバ・スライマン 編訳
マレー文化の源流をたどる
現在も語り継がれる昔話と伝説 17話を初めて邦訳
山の麓の老人 (2005年)
アジジ・ハジ・アブドゥラ 著
藤村 祐子 / タイバ・スライマン 訳
ボンソー山の麓がトゥキア老人の全てだった。父子の相克と軋轢から生じた悲劇を描き、長く人々の心を捉えるロングセラー

ミャンマー

初夏 霞立つ頃 (1990年)
マウウン・マウウン・ピュー 著
河東田 静雄 訳
真摯な魂が生んだ青春小説
社会主義国家建設時に書かれた『国民文学賞』受賞作品
農民ガバ (1992年)
マウウン・ティン 著
河東田 静雄 訳
第二次世界大戦下のイラワジデルタ地方の村。歴史の波に翻弄されながらも逞しく生きる主人公ガバ、民衆の視点に立ち、農民の言葉で描いた反戦文学の傑作
ミャンマー現代短編集1 (1995年)
南田 みどり 編訳
1980年代以降の、ミャンマーのいわゆる「短編黄金時代」に描かれた 14編を収録
ミャンマー現代短編集2 (1998年)
南田 みどり 編訳
1990年前後を中心に多民族国家ミャンマーの街、村、山に住む民衆の日常生活と心の営みを活写した 18編を収録
ミャンマー現代女性短編集 (2001年)
南田 みどり 編訳
娘、妻、母、女…それぞれの立場からミャンマーの社会やそこに生きる人々の姿を描いた女性作家による 21編を収録
漁師 (2007年)
チェニイ 著
河東田 静雄 訳
イラワジデルタ地方で暮らす貧しい漁師夫婦たちの日常とその心の軌跡を描いたリアリズム文学の傑作
ティンペーミン短編集 (2010年)
ティンペーミン 著
南田 みどり 編訳
文学と政治の狭間を駆け抜けた戦後ビルマ文学界の騎手
民衆の真の姿と自らの心の軌跡を浮き彫りにした傑作短編集
短編集 買い物かご (2014年)
キンキントウ 著
斎藤 敦子 訳
「市場」には人生がつまっている
「市場」を通した人々の日常や昔ながらの暮らしぶりが生き生きと描かれた作品 13編を収録
二十一世紀ミャンマー作品集 (2015年)
南田 みどり 編訳
いまのミャンマーが見えてくる、厳しい時代を生き延びた言葉たち、現代ミャンマーの日常を懸命に生きるさまざまな階層の人々の感慨がみずみずしく表現された短編小説 14編、詩 16編を収録
喜びの木陰 (2018年)
チェニイ 著
河東田 静雄 訳
イラワジデルタ地方の人々と同地方に生息する鳥や魚などの生態を細やかに描写。リアリズム文学の旗手にふさわしい珠玉の作品集。

ラオス

ムアン・ブアンの姉妹 (1993年)
スワントーン・プッパーヌウォング 著
星野 龍夫 訳
彼女たちが手を触ればすべてのものが花になる
気高く美しい姉妹を中心に、革命に青春を懸けた若者たちを描いた大作
ラオス現代文学選集 (2013年)
二元 裕子 編訳
「近くて遠い国」ラオスに生きる人々の息遣い
東南アジア文学賞受賞作家 6人が描く等身大の人間模様